

とか機械の貸し出しだとか、そういったことについてちゃんと整備をして進めるという建設課長の予定であったんですが、これは今どうなっていますか、その点だけ最後にお聞かせいただいで、ぜひ、そうでないとする、進めていただくようお願いしたいと思っておりますけど、いかがでしょうか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 協働の道づくりとか、あるいは花いっぱい関係だと思っておりますけども、それについては準備しておりますので、また正式に要綱等までは至っておりませんが、ぜひ21年度早々にできるように、そして地元の熱意にこたえられるように準備したいと思っております。ありがとうございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 あと1分ありますから。
建設課の方で進めていた何でしたっけ、あの表題、ありましたよね。それちょっと振っていただいで答えて。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 失礼しました。詳しいことにつきましては、建設課長の方から答弁いたさせます。

○町田義昭委員長 鈴木一則建設課長。

○鈴木一則建設課長 お答えいたします。

昨年要綱をつくりました、申しわけありません、市長。昨年いろいろと地区長会の方に入らせていただいで説明をさせていただきました。今年度も各大字地区長会の開催日に合わせまして要綱配付をさせていただいて、ぜひ取り組みをいただけるところには声かけを私どもの方にしていただくようお願いをしているところでございます。

なお、昨年中も道づくり、それから側溝入れ、それから草刈りとか泥上げということで、いろいろな形でご協力いただきましたところに機械刈り上げ、それから廃棄といえますか、草の投げ

場所の手だて、それからさまざまな原材料の支給という形でさせていただいております。まだ認知度が始まったばかりなものですから、今までの作業との境の部分といえますか、具体的にとなるとちょっと微妙な地区作業ということもありますので、これから順次PRを進めてまいりたいというふうに思っております。

○町田義昭委員長 ここで暫時休憩いたします。
再開は3時20分といたします。

午後 3時00分 休憩

午後 3時20分 再開

○町田義昭委員長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

我妻 昇委員の総括質疑

+

○町田義昭委員長 次に、順位3番、議席番号3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 よろしくお願ひいたします。ただいまは蒲生委員から保育計画のこと詳しくあったわけですが、私は、その中でも児童センターの使用料と学童クラブの負担金ということで質問させていただきたいと思っております。

昨年3月の定例会では、値上げについて児童センターの方は全員で否決になりました。その後どのような議論、検討を進められたかというのが今のところわからずじまいで、今回保育計画の素案というのが出されたと思っております。あわせて今後の考え方というものは、ある程度は素案にも載っているわけですがけれども、その2点について詳しくお聞きしたいと思います。

児童センターについては、皆さんご案内です

が、少し簡単に触れますけれども、以前市内の認可保育所と比べ、市の運営の児童センターと認可保育所を比べたときに同様の保育をしているということ、しかもそれが大分安いんだと、児童センターの方が割安感があるということで、それを最大で4,000円値上げするような提案が去年の3月になされたところでした。しかし、それに対して議会では、保護者への説明不足や子育て世代への影響が大きいこと、また認可保育所との比較が安易であったこと、しっかりした保育計画が出される前では市民の理解を得られないのではないかというようなことで、児童センターについては全員一致で否決と。

学童クラブについては、2,000円、40%の値上げの案が出されたんですが、これについては賛否が分かれたものの否決となりました。それ以後どのような経過をたどられてきたのか。私どもはというんでしょうか、少なくとも私は保護者への説明、市民への説明責任を果たした後は、また同じような議案を再提案されるのだろうかというふうな思いでいたわけですが、素案の中には「据え置く」というような言葉が見受けられました。その辺の検討、経過について、また、そのままでもいいと、そのままにするというふうにした経緯について、福祉事務所長の方からお答えをお願いいたします。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 お答えいたします。

昨年定例会で「保育計画を作成した上で決定していくべきである」というふうなご意見をちょうだいいたしましたので、保育計画を作成する中で検討させていただいたところでございます。児童センターの使用料につきましては、認可保育所の3歳以上の平均的な負担金や幼稚園の保育料等それぞれ実質保育時間で比較検討した結果、現状のままでというふうに至ったところでございます。

学童クラブの負担金につきましては、県内の

公設公営の学童クラブの利用料と比較いたしまして料金を設定させていただいたところです。学童クラブにつきましては、開設日数が長井市の場合少ないものですから、そちらの日数との兼ね合いで比較しまして、5,000円というふうなことで現状のままにさせていただいたところです。以上です。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 非常に簡単にご答弁いただいたんですが、昨年3月定例会では、比べたら市で運営の方が割安だったと、学童クラブについては県内他市町村と比べても非常に割安なんだということが前提だったわけですが、今の答弁ですと、比べたらそれほど変わらないんだと、学童クラブについては日数の関係を考慮すると余り変わらないんだということだったわけですが、じゃあ、去年のあれは何だったんだろうかと、どういう比べ方だったんだろうかというふうに非常に不思議に思うんですが、あの提案はやっぱり間違いだったんだなというふうに再認識するものであります。

あの3月の定例会の後、山新にこういうふうにかかれたんですね。あのときは議会から隣組長の修正案も出されましたので、こういうふうにかかっています。「否決や修正によって生じる1,300万円の財源不足に関してはほとんど議論にならなかった。拙速な提案という面は免れないが、議会側にも財政再建を念頭に、もう一歩踏み込んだ議論が必要だったのではないだろうか」ということで、皮肉ともとれるような記事なんですが、これは正しい議案を提案して賛否が分かれたというのであれば、反対するんだたらもうちょっと踏み込んだ議論が必要だったのではないかというのは正しい議論だと思いますけれども、間違った提案に対して全員一致で否決ということに対しては、これに当たらないのではないかというふうに思っている次第であります。

これは蛇足だったわけですが、市長からも同じご答弁をいただきたいんですが、この1年間どのような経過を経て今の素案づくりに至ったのか、また今後、料金設定という部分についてどのようなスタンスで考えていかれるのか、同じ質問であります、お答えをお願いします。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 昨年の定例会に出した議案について、誤りだとは思っておりません。ただ、ただいま福祉事務局長が申し上げましたように、保育計画をしっかりと作成し、議論いただいた上で提案すべきであったというところはやはり反省しなければならないと思っております。その提案した内容については、簡単に私も触れますと、保護者の方からのいろんな要望があったと思います。例えば延長保育をしてほしい、あるいは給食を出してほしい、また2人目、3人目、生活保護家庭の配慮、そういったところ等々があったと思います。そういったことから保育状況を見ますと、民間の保育園と、給食は出ておりませんが、余り変わらないんじゃないかということから、そういったサービスを将来的に整備していく、また2人目以降、3人目以降の所得に応じた料金体系ということをご提案申し上げたんですが、残念ながらやはりきちっとした説明、また保護者への理解を得る時間がなかったということで、そういった意味では非常に残念だったというふうに思っております。

また、学童クラブにつきましては、ほかの市町村の方が大体、長井の場合は3,000円の使用料と2,000円のおやつ代、ほかの市町村は1万円前後ぐらいが多かったということから、確かに福祉事務局長が申し上げましたように、学童クラブでの時間、日数は若干足りないんですが、総じて非常に安く料金を設定していたというふうに思いましたので、ちょっと保護者負担も大変なんです、ぜひ財政が厳しい折ということでご理解をお願いしたところでございました。

結果として、今回の保育計画に料金はそのままということだったんですが、これはちょうど昨年の暮れぐらいに料金も含めた大体のまとめをした段階で、経済情勢がこのような厳しい状況になったことから、保育料とか使用料、学童クラブの負担金、これも含めた公共料金をやはり頑張って上げるべきじゃないというような方針を確認したところだと、そんなことから料金についてはそのままという経過でございました。以上でございます。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 間違いではなかったというんですが、やはり私の考えでは、本当に精査していろんな比較検討した結果、適正な料金設定なんだ、価格設定なんだということでありますので、去年のことを蒸し返すようで申しわけありませんが、間違いだったのではないかなと思っております。

また、保育計画（素案）の中でも示しているとおおり、学童クラブは今後充実させていくと、土曜日も延長学童クラブというんでしょうか、延長させるということで、そういうふうにサービスが向上する、あるいは内容が充実するということであれば料金の値上げはだれも反対することはないと思っておりますので、ぜひ充実に向けて頑張ってくださいなと思っております。

また、市長にもう一言お願いしたいんですが、昨年は委員会、一般質問、予算総括や討論で非常に活発な議論がなされたわけですが、それを受けての検討というものをもう少しわかりやすく丁寧に説明すべきじゃないかなと。この素案から読み取るしかできないというのは悲しいというふうに私思っておりますけれども、市長の考えをお願いいたします。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻議員のご指摘のとおり、もう少し、大変約束した保育計画でありますので、その経過の途中で常任委員会も含めた、場合に

よっては全協で説明ということも必要だったかと思いますが、今回はあくまでも素案ということで、私はこれで決して計画が完成されたものというふうには全く思っておりませんので、蒲生光男委員のご質問のときも答えましたように、計画づくりの計画という部分がどうしてもあります。もちろんそれだけじゃなくて、保護者あるいはいろんな関係団体からの声も取り入れるかと思いますが、そんなことをご理解いただきたいと思います。

なお、例えば学童クラブの負担金でございますけれども、昨年も実はサービスを向上させたというふうに思っています。3年までだったのを6年まで上げましたので、その分だけ保育士さんが必要になりましたので。ただ、こういう時代ですし、今までは何とか財政が厳しいものですから子育て支援も我慢をお願いしてたんですけども、例えば今回1,000円これからは上げさせていただくように検討しておりますが、それは土曜日、保育士さんに出させていただいて、その日も開設するというので1,000円を上げさせていただきたいというふうに考えておりますけれども、ただ、サービスを向上させて、やっぱり納得いく料金設定なのかということについては、慎重に考えていかなきゃならないなというふうに思っているところでございます。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ありがとうございます。

何も検討を逐一報告しろという意味ではなくて、素案が出た時点で、これこれこういうことでのような素案をつくったのだということをもうちょっと踏み込んで説明していただきかけたなということでありました。そのうちというんでしょうか、もう少しすれば成案、計画というものが作り上げられると思いますので、それに期待するところでもあります。この件については、もうこれでおしまいいたします。

次に、水道水のボトルドウォーターについて

ですが、私も何年にもわたってこれ再三話題にしてきたわけですので、非常に愛着もある取り組みなんですけど、そこで水道事業所長には、初めての取り組みだったわけです、20年度初めての取り組みで得た成果と課題はということで、さまざまな講評を得たと思います。よかったというふうな好評、市民からの声あるいは市外からのいろんな声があったと思います。また、それとは裏腹に、もうちょっとこうすべきじゃなかったのかなというところも、いろいろご提案をいただいたり、自分で気づいたりしたこともあるかと思っておりますので、水道事業所長にその辺のところをお聞かせ願いたいと思います。

○町田義昭委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 我妻委員のご質問にお答えしたいと思います。今まで取り組んだ内容も少し踏まえて答弁とさせていただきますと思います。

水道水ボトルドウォーターの水道水のペットボトルにつきましては、6月定例会で補正予算で議決の後、8月の水まつりに合わせるため取り組んだところでございます。短期間にペットボトルの名称とかデザインを決定していかなければならないという、ちょっとスケジュール的にも大変なところがあったわけですが、水まつりには何とか間に合ったところです。

それで8月以降ですけれども、地場産センターのご協力によりまして、各地区公民館など11の公共施設に自動販売機を設置していただきました。そして水道水のペットボトルの販売、長井の水のPRをさせていただいたところでございます。また、タスの物産館、市役所売店などでも販売いただきまして好評を得たところでございます。物産館では長井市出身者へのお土産というようなことで、結構人気があったというふうなことを聞いております。あと、さらに内谷市長みずから江戸川区民まつり、あと仙台市泉区などに出向いて「長井 花のしずく」のP

R、そして長井のPRをしていただいたところ
です。あと市役所内でも会議などご利用いた
だきまして、ご協力をいただいたところで

大変うれしかったのは、市民の方から「本当
によいものをつくってもらった」という励まし
の言葉など、あと電話などをちょうだいしたと
ころです。あとPRとしてですけれども、米沢
有為会会報、教育会的な興譲館関係の組織だと
思うんですが、あと長井の商工ニュース、さら
に水道関係の機関紙などにも長井の水道水ペッ
トボトルを掲載していただいたところござい
ます。

あと予想しなかったことといたしますか、8月
から販売したわけですが、10月の末ごろま
でに4,000本ぐらい売れたというふうなことで、
これは私ども水道事業所でも驚いたことであり
ました。これは当然初めての試みで物珍しさ
といたしますか、そういうのも手伝ってのこと
と思っております。今回は初めての試みであり
まして、不安のままスタートしたわけですが、
感想としまして、1年目としてはまずまずとい
ったところだと私、感じているところです。長
井にちょっとした明るい話題を提供できたの
かなと思っているところであります。

課題といたしますか、反省としまして、私
自身思っていることなんですけれども、ペッ
トボトル、アヤメの写真を2面、両面に使
っているわけですが、つくってから気づいた
んですが、アヤメとシロツツジにすればな
およかったのかなと反省しているところで
あります。あと余りにも販売の方に意識し
過ぎた点も反省の材料として、今後の課
題としていきたいと考えているところで
す。以上でございます。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 好評だったと、市民
からもよいものをつくってもらったという
ような意見、私も、まずほとんどの市民
からはよかったです、すばらしいという
ふうにももらったんですが、

一部批判的な人も確かにいらっしゃいました。

「何で税金使ってそんなことするのか」と
いうような、そういうのはもちろんある
わけですが、おおむね好評で、お土産
にも使っていたり、お土産としてもら
った方にも非常に好評だったよう
でした。

水道事業所長のおっしゃるとおりだ
なと思うわけですが、今ちょっと気
になったのが、反省点としては、ア
ヤメとシロツツジにした方がよ
かったということで、ちょっと私
もパッケージはつきり覚えてませ
んが、どのようなパッケージだ
ったのか。聞くところによると、
そのパッケージは、ラベルという
んでしょうか、ラベルはもう刷
つてあるので次年度もそのラベル
でいくはずなんです、それは変
更はできるのかちょっとわから
ないんですが、そういうような
反省点があったということは、
変更できるんでしょうか。

○町田義昭委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 お答えいたします。

昨年、シュリンクラベル、ペットボ
トルの回りに張る正式名「シュ
リンクラベル」というそうなん
ですけれども、それは印刷で1
万枚単位でしかできないもので
すから最低の1万枚を印刷した
ところなんです。それで昨年は
5,000本の製作というように
ありまして、残り5,000枚残
ってるものですから21年度
の予算には5,000本製作とい
うようなことで、昨年の残り
の分の5,000枚を使用する
予定であります。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 21年度は
同じラベルでいくということで、
もしも22年度また取り組む
ことがあるとすれば、そこで
変更ということになるわけ
ですので、ぜひ今年度もい
ろんな意見を聞いて、もし
も継続となれば、それを生
かしていただきたいと思
います。

次には、21年度はさらに充
実した事業にということで、
ただいまの反省点にもあ
ったとおり

販売を余りにも意識し過ぎたというようなことだったようですけれども、私ももうちょっと本来のというんでしょうか、広報PR、水のPRはもちろん、市の観光や長井市全体のPR、広報ということにももう少し力を入れるべきだったのではないかなというふうに思っておりますので、ぜひ21年度はそういったことも踏まえてやっていきたいと思えます。

私が考えていることは、例えば夏季総合体育大会と、いわゆる「あやめ杯」ってありますよね。あやめ杯というのは、いろんな各種競技を市内の各所で大体6月でしょうか、アヤマの季節にほぼ合わせた形でやってるわけです。これは私は卓球のことしかちょっとわからないわけですが、かなりの100人とか200人という単位で、中学生、高校生も入れればもっとですけれども、大人の方でも結構な数の方が長井市外からいらっしゃる大会となっております。例えばこういう大会に参加賞、記念品というんでしょうか、記念品で出すとか、多分協会、協会でいろんな考え、アイデアを出して、いかに長井市に来てよかったなと思ってもらえるのか、このスポーツしてよかったなと思ってもらえるのかということで工夫されてると思えます。卓球協会もそうです、いろんな工夫をして、じゃあ、これを今回賞に出そうかと、参加賞はこれだなと、優勝した方にはこれだなというようなことを常に考えているわけですが、そういったことを前もって打ち合わせをすれば、せつかく市外からいらっしゃる方が多い大会でありますので、そういったところに出せるのではないかと。

また、マラソンや駅伝なんかも、ことしもかなり盛んにやりますよね。ここでも市民はもちろん市外、県外からもいらっしゃるわけですので、ここでも事前の打ち合わせをしっかりとすれば、ある程度の数を押さえてしっかりとしたPRができるのではないかなと。

また重ねて、お菓子やハムなど地場産品とい

うんでしょうか、あるわけですので、そういったものとあわせて詰め合わせの贈答品ということも考えられるのではないかなと。やってらっしゃる方、地場産でもうやってらっしゃるんでしょうか。ぜひ地場産のホームページや、あと広報誌でいろんな贈答品を宣伝してるわけですが、そういったところにも水と地場産業を組み合わせた詰め合わせの贈答品というものもできるのではないかなと。

また、視察や陳情、議員の視察ですとか、先日もし上げたとおりの産学官連携の視察、レインボウの視察、いろんなのあります。また来られる方がいます、また逆にこちらからいろんなところに行く場合があります。そういったときに、陳情なんかもそうですよね、も含めてお土産などになるかと思えます。その都度持っていくのかと、「1回持っていったからいいは」じゃなくて、例えば国交省に顔を出す際、市長や担当課長が行くわけでしょうけれども、県もそうですよね、1回あそこには持っていったと、そうじゃなくて、2回でも3回でもしつこくPRすべきではないかなと。「またか」と思われた方がいいのかと思えます。そういった面から情報を集めて、横の連絡をとりながら、あらかじめ数量をそれ用に確保すべきではないかなと。

これは21年度の要望ですが、それと同時に商工観光課や文化生涯学習課、地場産センター、観光協会などと連携を密にとることが必要となっておりますので、昨年の事業を起こすときにも連携をしっかりとしてほしいというふうに私なりに要望したわけですが、その辺を含めでもう一度、水道事業所長、21年度の取り組みについてお願いいたします。

○町田義昭委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 お答えいたします。

我妻委員のご意見は本当に大切なことだと思います。したがって、今後もさらに関係課と連携をとりまして、先ほど申し上げられまし

た各種イベント、あとスポーツ大会などを把握
しましてPRに努めてまいりたいと思います。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ぜひ地場産センターに丸
投げするような形ではなくて、水道事業所とし
ての事業となっておりますので、しっかりそこ
は主導権、リーダーシップをとって関係課との
連絡をとっていただきたいと思います。

同じことになりますが、市長にも今、私申し
上げたような提案ですとか、また市長なりに市
民からいろんなことを伺ってるかと思いいま
すので、そういったことを含めて21年度の取り
組みについて市長のご答弁をお願いいたします。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻委員からいろいろ提言を
いただきまして、ありがとうございます。21年度
につきましても5,000本しか予算組んでおりま
せん。我妻委員からのお話の中で批判的な声と
して、税金を使って何だというお話あったよ
うなんです、広い意味では税金といえば税金な
んですが、あくまでも水道事業所企業会計の中
で、その利益の中でやってるといところでや
はり水道事業所の職員の努力があったのかなと
思ってます。

ことはできるだけ早く発売するようにと、
本来であれば4月の桜の時期に桜のパッケージ
の花のしずくもあっていいだろうというふうに
私は思ってたんですけど、それをしたかったん
ですが、5,000枚分のシュリンクラベルがある
ということですので、まずそれでできるだけ早
目に製造して販売すると。売れ切れる見込みが
早かった段階で、また必要だったら、6月補正
というのは本来あり得ないんでしょうけども、
例えば7月、8月あるいは委員おっしゃった
ようにアヤメの時期、ちょっと足りないときに
追加または駅伝の東北大会、東北高校駅伝が
ございますので、そういったときに使えるよう
に追加で、今度は少しラベルも、職員が一生
懸命つく

ったラベルなんです、もう少し違った案で、
名称は「花のしずく」でいいと思いますので、
ぜひやればいいなど。

22年度以降については、今度本当にどうい
うふうにしてこれをやっていくか、例えば大き
い都市ではやっていますが、大体3,000万円
ぐらいの投資をすれば非常にコスト的に安く
できます。しかし、それなりの減価償却分を採
算とらねばならぬので、販売量も多くしな
きゃいけませんので、その辺なんかも含め
て検討していくべきじゃないかなという
ふうに思っております。大変ありがとうございました。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 非常に水道事業所長
もおっしゃるとおり長井市にとって明るい
事業、明るい話題であったなと思いいま
すので、ぜひ増産も含めて、この厳しい時
代にと言われるわけですが、市長おっしゃ
るとおり水道事業会計の中でやってるわけ
ですので、直接税金をむだ遣いするよう
なイメージではなくて、前向きな非常に
明るい事業として増産ということもぜひ
お願いしたいなど、今年度も好評であら
ばですけども、それに向けて頑張る必要
があるなど思っておりますので、ぜひすば
らしい事業として確立するようにお願い
いたします。

ちょっと蛇足というか、先日気になる新聞
報道がありまして、朝日新聞でしたか、水
道水のペットボトルが全国ではやってると
。あれは10万人以上の都市をピックアップ
してたんでしょうか、長井市はその一覧
表には載っていませんでしたけれども、そ
の背景に何か水道料金の値上げがあるん
ではないかなというような懐疑的な、何て
いうんでしょうか、記事で締めくくられて
おったわけですが、少なくとも長井市は
そんなことはないなというふうに思ってい
るわけですが、一応その記事を読んで長
井市のことを心配してる市民がいらっしゃ
るかもしれませんので、市長からそこを
一言をお願いしたい

+

と思います。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ありがとうございます。料金を値上げをしないで頑張っていかなきゃならないなどというふうに思っております。加えて、一般質問でもいただきましたけども、周辺の市町村の方に応援できるような体制とれば、そして長井でメリットあればさらに、むしろ料金を下げるとするのは難しいかもしれませんが、少なくとも料金を上げないで頑張れるように努力していただきたいというふうに思ってます。以上です。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ありがとうございます。それでは、最後のプレミアム商品券についてでございます。

プレミアム商品券は、長井市の場合1億円ということで、予想以上の好評を得て1日半で売り切ったということで、私もびっくりしましたし、担当の方は一番びっくりしたんでないかなと思います。残念なことに報道されていることが非常に悲しい部分が大分取り上げられているなと思います。新聞あるいは先日、商店街のある方が「テレビ局も取材に来た」と言っておりました。「どういう取材だったんですか」と言うと、うわさがあると、丸もうけをした事業者があるんだと、そういううわさがあるが本当かというようなことで、あるテレビ局がうちに取材に来たんだというようなことをおっしゃられた方がいらっしゃいました。

非常に心配してるわけですが、例えば新聞には、「1人5万円までとされた購入制限が実際には守られず、取扱店の事業主が大量購入するケースがあったという。もしこれが使われずに換金されれば税金を投じたプレミアム分が全くむだになるという話だ」ということで、「プレミアム分を丸もうけする行為は商道とか、あるいは良心に背くことにならないか、長井市には

今も公德心が脈々と受け継がれていると信じている。それが今回の一件だけで否定されることになったら長井を愛する一人としてこれほど悲しいことはない」ということで、これはどなたが書いたのかわかりませんが、こういったことも載せられておまして、非常に読んだ方は何か悲しい思いをされたのではないかなと思います。このように今取り上げられている丸もうけと、商品券の取扱加盟店の地主による大量購入と使用しないままでそれを換金するという丸もうけですね、この事実は、これ本当なのかどうかと、商工観光課ではそれをどのようにとらえていらっしゃるのかということで、まずお聞きしたいと思います。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。新聞の記事の中にもございましたが、話は聞こえてはくるんですけども、確証はないというふうな状況、逆に話があったというふうなことに對しまして、それに近い事実はなかったというふうなことを言い切れるような状況でもないというふうなことでございます。ただ、結果的にこうした報道がなされるような状況に至ったという責任の一端を痛感しております。

また、この事業に対応して個別の商店あるいは商店街の皆さん方が独自のセールに取り組んだというふうなこともあります。そうした取り組んでいただいた事業者の皆さんにとっても、ある意味では悲しい部分を残したというふうなことになったかなというふうに思っております。残念に思いますし、また、そういったいい形で取り組んでいただいた事業者の皆さん方に、また不快な思いをされた市民の方に申しわけないというふうに感じております。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 全く同感であります。結果として、あったともなかったとも言えない状態なわけですが、あったとすれば本当に

悲しいことだなど。ただ、頑張った方がほとんどですので、もしも本当だとしても、そんな方はごくごく一部の方であって、ほとんどの方は取扱店になった方は一生懸命取り組んでいただいたし、メリットも感じられたのではないかなと思います。

そこで第2弾というものをどのように考えていらっしゃるのかなど。そういったことを反省点というふうにして、また違う取り組みをするのかどうか、また同じように取り組むのかどうかということが気になるわけですが、第2弾はどのような内容なのか。

また、3番目で購入をためらってしまう方々への配慮をというふうに書いてあるんですが、これは例えば市役所職員だとか我々のような議員ですとか、もしも売れ残れば購入しようというふうに思ってたと思うんですね、我々のような立場は。何か行列の一番最初に並んで率先して買うというようなことはとてもできなかった、ためらってしまったとというのが現実だと思います。この配慮をというのには、特別な優遇措置をという意味ではありません。配慮というのには、そういった感覚を持った方も実際にいらっしゃるわけですので。ただ、そういう方はプレミアム商品券に関係なく長井市の経済に貢献するのはもう当たり前なことなんですけれども、せっかくこうやってプレミアム商品券だと、そして第2弾だと言っているときに我々がいうんでしょうか、協力していないような感覚に陥るような、何か気まずいような、これではどうもいけないのではないかなと、そういう意味で配慮というふうな表現をしております。

また、市役所の職員、公務員やら私たちは一番景気に左右されない報酬というんでしょうか、給与を得ているわけですね。だからこそこういった時代に地域経済に貢献すべき一番の本当に先頭に立つべき立場ではないかなと思うのに、ためらってしまうような、恥ずかしいような何

か中途半端な立場でありますので、そういった面をどのように考慮するのかというのは非常に難しいと思います。各地でも何かいろいろ試行錯誤されてるようですが、そういったことを情報を集めて第2弾をどのように考えていらっしゃるのか、商工観光課長、お願いいたします。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 第2弾といいますか、これからの部分でございますが、商工会議所に対してプレミアム分1,000万円、それから事務費として50万円というふうなことで補助を予定したいというふうに考えてございます。枠組みといたしましては、生活支援対策と同時に景気対策というふうな目的を考えたいというふうなことで、10%のプレミアムというふうなことで総額1億1,000万円というふうなことで考えてございます。

それから、改善の方法というふうなことで、今回の反省を踏まえまして現在、商工会議所さんの方とともに検討しておりますのが、商品券の購入申込書というんでしょうか、それを市報に折り込みをするような形で、氏名等を記入していただいて、切り取っていただいて販売所の方に来ていただくというふうな形で考えたいというふうに思っております。前回は市外の方も対象にしたいというふうな考え方から、このような対応はとらなかったわけですが、今回は市民に限るというふうな考え方で対応していきたいというふうなことでございます。

この場合ですと、購入者につきましては、基本的には世帯を代表してというふうな考え方になろうというふうに思います。1世帯当たり何枚ぐらいが適当だというふうなことで限度数量を設定をしたいというふうに考えてございます。

なお、商工会議所が中心になるというふうなことで、前回の取り組み以上の事業者の協力を期待したいというふうに思っております。

それから、第2点目の購入をためらってしま

う方々に対する配慮というふうなことでございますが、今とりわけ私ども公務員等についての特段の配慮というふうなことは考えてございません。ただし、商工会議所の方で地元で買い物をしましょうというふうな「か〜あう♪」運動というふうなことを今、一生懸命やっております。その運動に私ども市役所の職員も協力しながら、地元の購入運動を進めていくというふうなことで考えていただきたい、進めていただきたいというふうに考えてございます。

あとは、このプレミアム商品券を購入いただいて積極的に市内の消費拡大に協力するというふうな形でご理解をいただいて、ぜひまちの事業者に元気を与えてほしいというふうに考えてございます。以上です。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 配慮の方は後にしまして、どのような内容かということで、市民とか、新聞でもあったでしょうか、1,000円券では本当の意味での使い勝手が悪いのではないかと。一番救済というんですか、一番配慮すべき方々にとっては500円券がいいのではないかとか、どっちにしろお金と同じなわけですからおつりも出せるようにしたらいいんじゃないか、いろんな意見が出されたと思いますが、その辺の検討というのはどのようにされて、どのように商工会議所と打ち合わせをなされているのか、お願いいたします。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

500円券につきまして、購入をする立場の方からそういったふうなご意見があったというふうなことは存じてございます。ただ、このプレミアム商品券自体につきましては、先ほど申し上げましたとおり生活の支援の対策というふうな部分と、それからあわせて景気対策というふうな両方の側面を持つというふうに考えてございます。1,000円券では使いづらいというふう

なことかとは思いますが、家族で利用するというふうな考え方に立っていただきまして、ご利用をいただければというふうなことを考えてございます。

なお、商工会議所の方と特に換金事務作業等を考え、銀行さんの方ともいろいろ打ち合わせをなさったそうなんです、前後の事務処理の段階で、要するに500円だと2倍に枚数がふえるというふうなことがございまして、事務的なリスクが大きくなるのではないかとというふうなことなどもございまして、今回前回と同じような1,000円券というふうなことで取りまとめをしたところでございます。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 500円券あるいはおつりについては触れられていませんでしたけれども、500円券あるいはおつりのことは市民の要望として実際あるわけですので、それができないと、事務作業のこともあるしということであれば、ちゃんとわかってもらった方がいいと思います。またかと、全然私たちの要望が通らないんじゃないかというような思いになる方もいらっしゃると思いますので、そこにはきっちりわかるように、いや、1,000円なんだと、おつりはできないんだと。どっちかやればいいんですけど、500円にするか、おつりを出せるようにするか、どっちかにすればいいんですが、どちらもできないとなれば、わかるように説明すべきと思いますが、その辺のご配慮はいかがでしょうか。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

先ほどの質問に抜けたんですが、つり銭につきましては、基本的に今の段階では考えておりません。

なお、この事業の趣旨につきまして、これから市報あるいはチラシ等で市民の方に周知を図るわけですが、その際にそのような内容につい

てのご理解を得るようにしていきたいというふうに考えております。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 よろしく願います。

購入をためらってしまう方ということで、公務員あるいは議員ということなんですが、特別な配慮という意味ではありませんので。ただ、やっぱり10%もプレミアム分がある券を優先的にこのような人を買わせるというのは、またかえって逆効果というか、逆に批判を浴びてしまうこともありますので、そういったことではなくて、商工観光課長おっしゃるとおり、この運動というんでしょうか、商工会議所でやっている「か〜あう♪」という事業に積極的に参加するということなんですが、ぜひ市挙げて、我々もそうですよ、我々議員もそうですが、ぜひ自覚を持って、一番安定した収入を得てるということの自覚を持って、それをできるだけたくさん地域で使うんだという、そういった機運を盛り上げるというんでしょうか、施政方針には3S運動ですとか市長が愛がまだまだ足りなかったんだというような表現をされていらっしゃいますけれども、市役所はもちろん我々も含めて愛を持って、プレミアム商品券を買う、買わないは別にしても、しっかりと地域経済を潤す一人の担い手なんだということの自覚を持つ必要があるんじゃないかということで、市長に最後にお伺いいたします。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻委員ご指摘のとおりだと思います。

ちょっと聞かれてないことで恐縮なんですけど、実は2月の中旬に商工会議所と5商店街との意見交換会というのを行いまして、その場で定額給付金にあわせてもし商店街もいろんな取り組みをなさるんなら、市としても何とか議会から承認いただいて第2弾をしたいというふうな考

えもあると、ひいては500円券、我妻委員がおっしゃったとおり500円券だと私は思っています。また、飯豊みたいに20%をやるかですけども、10%でもいいですね。もう今回の商品券でも、ある商店では1,000円で50円券を4月以降使えるように発行してるところとか、あるいは商店街で景品を出すところとか、いろんな取り組みをなさってますので、ぜひ一緒に商工会議所、商店街やりませんかということで呼びかけまして、会議所もそれを受けてやってくださるということなもんですから、我々行政側としても、できるだけ意向は伝えつつも、やはり一緒になって市民のために、また地域経済の活性化のために頑張っていきたいと思いますので、何とぞ議員の方もためらわずに買っていただいていたいいかと思います。

私も実は、豊田地区に行きましたらまだまだ残ってるということだったですから少し買わせていただきました。実際使ってみるとわかるころがありますし、例えば私、床屋さんで使ったんですけど、床屋さんでも喜んでました。このポスターを張っていると、売ってると思って三、四人の方が買いに来たというふうなことで、非常に関心が高かったということでありましたので、ぜひ今度は不正等がやっぱり起きないようにすることもこちらの務めだと思いますので、その辺も含めて頑張っていきたいと思いますので、よろしく願います。大変ありがとうございました。

散 会

○町田義昭委員長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は19日午前10時といたします。
ご協力ありがとうございました。

+

午後 4時10分 散会

+

+

+